

星に願いを

意見発表会 分野Ⅲ類 関東ブロック連盟 東京都立大島高等学校
農林科 2年 川島 星菜

「先輩出番ですよ」この私のセリフに続き「みなさん、本日は大島高校椿園によろしくお越しくございました」と椿ガイドの様子を観光甲子園で演じた先輩は誇らしく星のように輝いて見えました。

島の宝「椿」を徹底的に楽しんでもらう。伊豆大島の自然と文化を満喫してもらう。島の人たちの絆を感じてもらう。これら三つのコンセプトをもとに、授業の一環で滞在型観光ツアーを考え、全国高校生観光甲子園で発表しました。ツアーを考えるにあたって、私たちは観光スポットを巡りながら「ツアーには地層断面や島グルメを入れよう」、「おみやげには椿油がいいよね」などと話しました。ある日の帰り、家に着く前にふと夜空を見上げると目に写ったのは、輝く星々。この星のように大島を輝かせたい、そう強い思いを抱きました。

観光甲子園の結果は見事金賞！その結果をお世話になった商工会や地域企業の方々に伝えると「高校生が大島のために頑張ってくれた」と喜んでくれました。そして話は進み、伊豆諸島と東京の航路を結ぶ、東海汽船がこのツアーを現実のものにしてくれたのです。

「東京の島、伊豆大島 TSUBAKI 三味の旅」と名付けたツアーは即完売。当日は椿ガイドとして、校内の椿園をご案内しました。観光客の方々からは「ガイドがあるから椿の魅力がわかりやすい」、「また大島にきたい」などの感想を頂きました。実際、来島者数は5年かけて 50,000 人増えていますが、このツアーをきっかけにさらに増やすことができた実感しました。

農業と環境の授業で、「大島には耕作放棄地が約 120ha もある。これは人口減少による産業の衰退が原因で年々増え続けている」そう先生は言いました。しかし、ピンとこなかった私は母に「お母さんが高校生の時は1学年に何人生徒がいたの？」と尋ねてみました。すると「100 人は居たよ。教室の後ろまでギッシリ机があって、狭く感じたな」と母は答え、その言葉に私は耳を疑いました。なぜなら私の学年は 38 人しかいないからです。調べると大島の人口は 10 年間で 1,000 人も減少していました。その原因は大島の若者が仕事を求め島外に出ていくこと。せっかく、地域振興のための観光ツアーを考えても、人口が減少し、耕作放棄地が増えては、島を維持することができません。

これを解決する策はないだろうかと考えていた時、観光甲子園でお世話になった株式会社椿の日原社長にレモン農家を紹介して頂きました。森林科学の授業で見学に行くと、目にしたのは、お店で販売されている物よりも、一回りも大きく星のように輝くリスボンレモンでした。農家の金森さんは「レモンは丈夫だし野菜や草花のように日々の管理がなく、手がかからない」、「産業として可能性があるが、継承し広げる人がいない」そう仰っていました。

「それならば、私たちが継承し広げよう」とレモン栽培を始め、ビジネスモデルを作ることにしました。ところが、早くも課題を発見。レモンは温暖な地中海性気候を好むため、

大島は栽培に最適です。しかし、排水性が良すぎるため、土が乾燥した状態が続き、対策をしないと木が弱って枯れてしまうことがわかったのです。

そんな時、思い出したのが日原社長の「年間 14t 排出される椿油の絞り粕を有効に使えないか」という言葉です。1 年生の農業と環境では元肥としてナタネ油粕を使用していましたが、椿油の絞り粕でも有効なのではないか、そう考え比較試験を始めました。今後もこの取り組みを続け、今ある資源を有効活用し循環させることで環境負荷を低減させることを目指します。

栽培試験と同時に、産業として島内に広めるための試算をしました。レモンは 1ha で約 1,000 本の栽培が可能です。また、栽培に必要な労働時間は、1ha あたり年間約 2,460 時間ですので最大二人の作業量です。耕作放棄地の一割の 12ha をレモン畑にすれば、約 20 人の雇用が生まれます。これにより、若者の働ける場所を作るのです。生産したレモンは、イオングループと連携して販売されることが決まっています。レモンを通して大島について興味を持っていただくことで、新たな観光客を呼び込むのです。

この試算はあくまで目標です。しかし、地域振興に大切なことは、その地域にあるものを徹底的に生かすことではないでしょうか。大島は椿にこそオンリーワンの付加価値があります。椿油など伝統的な特産品を守りつつ、椿とコラボした新たなものを生み出していく、そんな取り組みこそが地域を盛り上げてくれる、いや、私たち高校生が地域を盛り上げていく！そして将来は、教員として、生徒とともにこの取り組みを続けていきます。

星々のように輝くレモンが大島を照らす日を目指して！